

## 第7回 認知科学実習 —動詞の連想実習マニュアル—

### 1 はじめに

私たちが日常生活で使用している言葉の中で、動詞の意味や使い方を理解していなければ、文の意味を正確に把握することは不可能でしょう。そこで、人間の言語記憶の一環として動詞を中心とした連想構造を調べるために、**動詞の連想実習**を行います。本実習では、皆さんに連想を実施してもらって記憶の中から動詞を中心にした様々な情報を抽出します。この連想実習は上記のような目的以外では利用せず、実習結果は統計処理を行いますので、回答をして頂いた方の個人情報には十分に守られます。

#### 1.1 実習の手順

- (1) 実習マニュアル：熟読して実習の趣旨や課題の意味などを理解します。
- (2) 練習問題：練習のために回答をマークシートに書き、授業終了時に回収します。その後回答の採点をする予定です。授業を欠席した人で後日練習問題をする場合は、イオタ 302 前にある問題用紙に解答を書き、答え合わせをした後でイオタ 302 前の回答箱に提出します。
- (3) 実習の注意：本資料をよく読み、Web 上の実習システムにアクセスして実習を行います。

#### 1.2 問い合わせ

この実習システムの管理者は、政策・メディア研究科後期博士課程の寺岡丈博です。不明な点や質問がある場合は下記のアドレスまでメールをして下さい。

E-mail : [teraoka@sfc.keio.ac.jp](mailto:teraoka@sfc.keio.ac.jp)

#### 1.3 注意

実習の期間は **11 月 12 日（月）～11 月 29 日（木）** です。期間中に理由があり、実習を行うことができない履修者は、期間中に寺岡([teraoka@sfc.keio.ac.jp](mailto:teraoka@sfc.keio.ac.jp))まで必ず連絡して下さい。その履修者の実習期間延長の手続きをします。尚、期限後のメールは原則として取り扱いません。

### 2 連想の課題—深層格

文法的な主語や目的語などを一般的に表層格と言いますが、ここでは深層格と呼ばれる動詞と意味関係を持つ格の名称を連想における課題とします。例えば、「誰が何をどうした」という文では、動詞から見て「誰が」は動作を行う主体であり、「何を」は動作の対象を表します。このように、動詞と意味関係を持つ主格や対象格などの格を深層格と言います。本実習にて連想の課題として用いる深層格は、下記のように 10 種類ありますので、それぞ

れの意味をよく理解して下さい。各課題に付記してある（～が、～は）などは、その課題と一緒に頻繁に使用される助詞やそれに順ずるものの一例です。これだけではなく、他に該当するものもありますので注意して下さい。

- ・ **動作主** : 動作を行う主体（～が、～は）
- ・ **対象** : 動作の対象（～を）
- ・ **始点** : 動作の始点・起点（～から、～より）
- ・ **終点** : 動作の終点・目標（～まで、～へ、～に）
- ・ **時点** : 動作が行われる時刻・時間（～に）
- ・ **場所** : 動作が行われる場所・空間（～で）
- ・ **手段** : 動作を行うための道具や材料（～で）
- ・ **様相** : 動作の様態・様子・程度・頻度など（～に、～で）
- ・ **理由** : 動作の理由・原因（～によって、～で）
- ・ **目的** : 動作の目的（～のために）

### 3 課題の説明

実習では、提示された動詞と課題に対して連想して、あてはまる語を答えてもらいます。課題の説明と例を下の表に記していますので、課題にある深層格と「」内の\*\*\*にあてはまる単語の関係をよく理解して下さい。

| 課題         | 注釈                                                                                                                                                                                                                                |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>動作主</b> | 提示語の動作における <b>動作主体</b> を連想します。<br>例：「***が本を借りる。」<br>「借りる」に対して、***は動作の主体になる単語です。<br>例えば、***には「学生」、「子供」などが入ります。                                                                                                                     |
| <b>対象</b>  | 提示語の動作の <b>対象</b> を連想します。<br>例：「学生が***を借りる。」<br>「借りる」に対して、***は動作の対象になる単語です。<br>例えば、***には「本」、「CD」などが入ります。                                                                                                                          |
| <b>始点</b>  | 提示語の動作が始まる始点・起点のことで、動作によって <b>変化するとき</b> の初めの状態、場所、時間などを連想します。<br>例：「少年が***から学校まで歩く。」<br>「歩く」に対して、***は動作の始点になる語です。<br>例えば、***には「家」、「駅」などが入ります。<br>例：「イチョウが***から黄色に変化した。」<br>「変化する」に対して、***は色が変化する初めの状態を表す語です。例えば、***には「緑」などが入ります。 |

|    |                                                                                                                                                                                                               |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 終点 | <p>提示語の動作が終わる終点のことで、動作による変化が終わるときの状態、場所、時間を連想します。</p> <p>例：「毎朝、少年は家から***まで走る。」</p> <p>「走る」に対して、***は走るとき終点の場所の単語です。</p> <p>例えば、***には「学校」、「駅」などが入ります。</p>                                                       |
| 時点 | <p>提示語の動作が行われる時刻や時間、または期間を連想します。</p> <p>例：「***に歯を磨く。」</p> <p>「磨く」に対して、***は磨くときの時刻や時間の語です。</p> <p>例えば、***には、「7時」、「午前中」などが入ります。</p>                                                                             |
| 場所 | <p>提示語の動作が行われる場所や空間を連想します。</p> <p>例：「お金を***で借りる。」</p> <p>「借りる」に対して、***は借りる時の場所を表わす語です。</p> <p>例えば、***には「銀行」、「学校」などが入ります。</p>                                                                                  |
| 手段 | <p>提示語の動作を行うために使う手段や道具、材料を連想します。</p> <p>例：「宿泊代を***で支払う。」</p> <p>「支払う」に対して、***はその道具や手段を表す語です。</p> <p>例えば、***には「現金」、「カード」などが入ります。</p> <p>例：「鶴を***で作る。」</p> <p>「作る」に対して、その道具や材料を連想すると、例えば、***には「折り紙」などが入ります。</p> |
| 様相 | <p>提示語の動作を行うときの様態、様子、程度、頻度を連想します。</p> <p>例：「新しく購入した車を*** (に) 扱った。」</p> <p>「扱う」に対して、***には様子を表わす語が入ります。例えば、***には「慎重」、「丁寧」などが入ります。</p> <p>例：「テニス部では***練習する」</p> <p>***には「厳しく」や「毎日」、「週3回」などが入ります。</p>             |
| 理由 | <p>提示語の動作が行われるときの理由や原因を連想します。</p> <p>例：「***のため帰宅してすぐに寝た。」</p> <p>「寝る」に対して、***は原因や理由を表わす語が入ります。</p> <p>例えば、***には「発熱」、「病気」、「疲労」などが入ります。</p>                                                                     |
| 目的 | <p>提示語の動作を行うときの目的を連想します。</p> <p>例：「***のために外国語を勉強する。」</p> <p>「勉強する」に対して、***は目的となる語になります。</p> <p>例えば、***には「留学」、「試験」などが入ります。</p>                                                                                 |

## 4 動詞連想実習の詳細

### 4.1 実習期間

**11月12日(月)～11月29日(木)**

※期間中に事情があって実習ができない人は寺岡(teraoka@sfc.keio.ac.jp)まで必ず連絡して下さい。確認でき次第、実習期間延長の手続きをします。

### 4.2 実習の注意

- ・ 実習を行う前に練習問題を実施して十分に理解して慣れて下さい。11月8日の授業に参加しなかった履修者は、実習を始める前に練習問題をイオタ302の廊下にある机の上から入手、或いは4.4のURLから練習問題をダウンロードして解いて下さい。練習問題の正解も同様のURLから入手できますので、必ず答え合わせをして同じ机の上にある回答提出箱に入れて下さい。
- ・ 実習は人と相談しないで自分ひとりで進めて下さい。
- ・ 1問30秒を目安として連想語をなるべく多く答えて下さい。
- ・ しばらく考え込むようならば先に進めて下さい。
- ・ 実習は40分程度で済みます。
- ・ 実習を途中で中断した場合は、もう一度最初からやり直す必要があります。
- ・ ブラウザのJava Scriptの設定が有効になっていることを確認して下さい。

例：Java Scriptの設定の確認（Firefoxを使用する場合）

- ① Windowsの場合は、Firefoxを起動させて「Firefoxメニュー」から「オプション」を選びます。Macの場合は、Firefoxを起動させて「メニューバー」の「Firefox」から「環境設定」を選びます。
- ② 「コンテンツ」のタブをクリックします。
- ③ 「JavaScriptを有効にする」の項目にチェックが入っていることを確認します。チェックが入っていない場合は、チェックを入れて「OK」をクリックします。

### 4.3 実習内容と実習システム

提示語が1語につき課題1問です。今回の連想実習では約60問の問題があります。提示語の動詞と課題から連想した語は、かな漢字変換して入力して下さい。実習システムはWeb上で作動するため、オンライン状況の下で実習を行います。実習が終わると実習が正常に済んだか否かを確認できるパスワードが画面に記されます。このパスワードは実習の終了を自分で確認する際に必要となりますので必ず保存しておいて下さい。

### 4.4 実習の進め方

- ① 下のURLにアクセスします。

<http://web.sfc.keio.ac.jp/~teraoka/cs12/>

- ② 『実習の注意』を改めて読み、実習の準備が整っているのであれば『連想実習システム』の「動詞連想実習を行う」をクリックします。十分に用意できていなければ『実習の説明資料』を利用して準備を整えます。(図1)



図1 実習のメインページ

- ③ 認証画面にて、自分の学籍番号を入力し「submit」ボタンをクリックします。(図2)



図2 認証画面

- ④ 画面が変わった後に「ここを押したら開始します」をクリックすると連想実習の練習が始まるので、思いついた単語を連想語の箇所に1語入力するごとに「入力」ボタンをクリックして右側の連想結果リストにためます。その課題についてできるだけ多く

の連想を行い、連想し尽くしたら「連想終了」ボタンをクリックして、次の問題に進みます。本実習では操作を間違えないように2～3問の練習で慣れて下さい。(図3)



図3 連想実習の画面

- ⑤ 実習が終了すれば図4の画面になるため「実習終了」ボタンをクリックして下さい。



図4 実習終了の画面

- ⑥ 「実習終了」ボタンをクリックすると図5のようにパスワードが発行されます。このパスワードは自分が実習を終えたことを確認する時に必要なので、必ず記録しておいて下さい。



図5 パスワード発行の画面

- ⑦ 実習の実施状況を確認する時は、パスワード発行の画面上の「**連想実習実施状況確認**」をクリックするか、連想実習メインページの「**動詞連想実習を行う**」の下にある「**実習結果を確認する**」をクリックすると図6のページになります。学籍番号と発行されたパスワードを入力すると実習実施日付が確認できます。

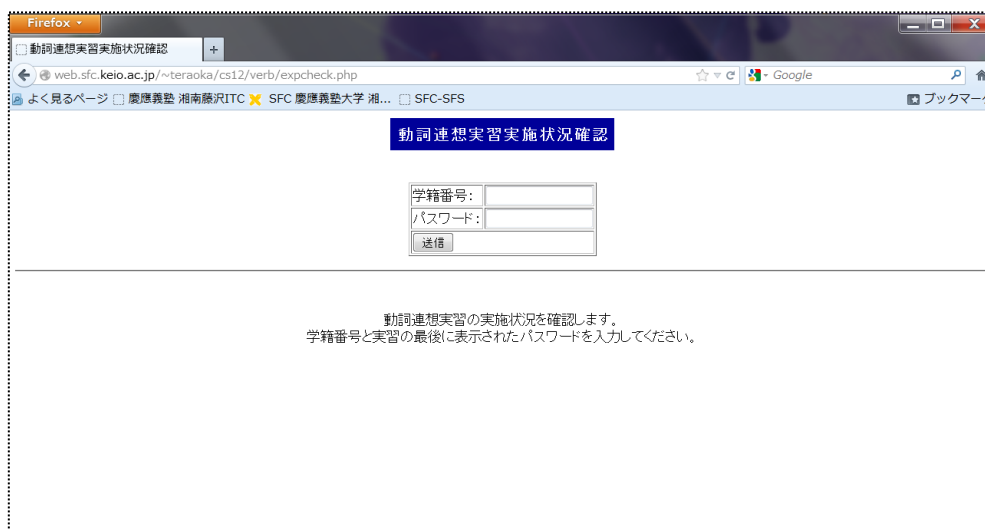


図6 連想実習実施状況確認の画面

以上で連想実習は終了です。不明な点がありましたら、寺岡(teraoka@sfc.keio.ac.jp)までメールをして下さい。